



## 昭和60年 (1985) 県勢ビッグテン

- 1 東北新幹線上野乗り入れ実現、「新花巻」・「水沢江刺」両新駅も同時開業。花巻一名古屋便空路開設など高速交通網さらに充実
- 2 岩手産業文化センター完成。「明日の岩手 産業と文化の創造」をテーマに「いわてピア'85」、常陸宮ご夫妻を迎え「第8回全日本ホルスタイン共進会」などビッグイベント開催
- 3 新日鉄釜石前人未到のラグビー7年連続日本一を達成。世界柔道選手権大会で日陸暢年選手が二連覇を成し遂げ、ともに県民栄誉賞に輝くなどスポーツ界で気を吐く
- 4 県内水稲2年連続大豊作で農村に活気。メッシュ気候情報システムの実用化など農作物の適地適作をきめ細かに推進
- 5 大規模年金保養基地グリーンピア田老待望のオープン。快走続ける三陸鉄道とともに三陸沿岸の振興に大きなインパクト
- 6 福祉の充実を目指し「福祉の里」・「桐の郷」の建設始まる。県民の善意の輪広がり、愛の献血 100万人達成
- 7 サケ漁2年連続の豊漁。第二栽培漁業センター建設に着手するなど「つくり育てる漁業」に高まる期待
- 8 県単高速関連道8ルート12路線整備進む。県内6番目の公共港湾小本港の建設着工など県土の基盤整備さらに前進
- 9 警察用ヘリコプター、新鋭警備船配備、総合防災センター建設など県民の暮らしを守る整備一段と充実—青春のあかし、高校生の文化の祭典—「第9回全国高等学校総合文化祭」開催。啄木・賢治のふるさとで交流の輪広がる
- 10

県民待望の東北新幹線上野乗り入れの実現など、本格的な高速新時代を迎えた昭和60年も残すところわずかで幕を閉じようとしています。

県内の水稲は2年連続の大豊作、サケ漁も豊漁が続き私たちのふるさとには自然の恵みを大地いっぱい受けとめました。

「いわてピア'85」、「全国高等学校総合文化祭」、「全日本ホルスタイン共進会」のビッグイベントも相次いで開催され、「みちのく岩手」が注目を浴びた一年でした。

新しい年が北東北時代に向けて前進を続ける本県にとってさらに素晴らしい年となることを願うものです。

**1月** 三陸の海を黄金色に染めた初日を浴びて走るアイボリーホワイトのトレイン。穏やかな昭和60年を迎えた県内は、91万人の初もうで客でにぎわう活気あふれるスタートとなりました。

第3回いわて少年の船参加団員418人が洋上研修に出発したのは10日。13日には第5回岩手青年の船、次いで第4回婦人の船とそれぞれ大海原を舞台にした研修が行われました。

## 釜鉄ラグビー7連覇初の県民栄誉賞

7年連続ラグビー日本一を目指す新日鉄釜石ラグビー部は、まず社会人ラグビー大会決勝で神戸製鋼を破り社会人V7を達成。成人の日の15日、学生の本拠地・同志社と対戦し31対17で快勝、ラグビー日本選手権7連覇と通算8回目の日本一を達成しました。前人未到の記録を伸ばした新日

鉄釜石ラグビー部が岩手県民栄誉賞の受賞第1号に輝いたのは31日のことです。

**2月** 厳しい寒さを迎えた県内、節分の3日には内陸部を中心に雪が降り、盛岡で積雪が64センチに達し、2月としては観測史上5番目を記録しました。初の県企業立地セミナーが東京で開催されたのが14

日。112社の企業が出席し、高速交通体系の整備が進む岩手への立地に高い関心が示され好評でした。

新しい県総合発展計画の実質初年度の60年度県当初予算は、4,616億3,500万円で、59年度当初予算に比べて3.2倍の伸びとなり、沿岸部と内陸部を結ぶ主要道路8ルート12路線の県単高速交通関連道路の整備に30億円を計上。先端技術の研究開発推進にも積極的に対応するなどの施策が盛り込まれました。

サケ漁は豊漁が続き4万1,000トンの漁獲となり、沿岸は空前のサケ景気にわきました。

**3月** 第6回名古屋国際女子マラソンで、佐々木七恵選手が自己最高、日本歴代3位の好記録をマ-

クして優勝。栄光のフィナーレを飾ったのは3日。第63回全日本スキー選手権大会ノルディック種目女子リレーで、本県のリクルートチームが念願の初優勝を遂げた9日に、県庁では適地適作の推進を目指し、きめ細かな気候情報を提供するメッシュ気候情報システムの開通式が行われました。

## 三陸の新拠点グリーンピア田老開業

**4月** 1日、普代村堀内地区漁協婦人部の人たちが、いつものように三陸鉄道堀内駅を清掃している。

地域の人たちに支えられ、マイレール三鉄として快走し続け、初年度約2,500万円の黒字を計上した三陸鉄道。開業1周年を迎え、祝賀列車や一日駅長などの記念行事が行われ、沿線は喜びにわきました。

12年の歳月と総工費52億円をかけて田老町に建設されていた大規模年金保養基地グリーンピア田老

14日、東北新幹線上野～大宮間が開業。待望の上野乗り入れが実現し、本県と都心が新幹線で直結しました。同時に、全国初の地元負担で完成した新花巻、水沢江刺の両新駅でも相次いで開業式が行われ、地域の人たちは宿願達成を喜び合い、多彩な祝賀行事が繰り広げられました。

が11日に完成、三陸鉄道とともに三陸沿岸振興の拠点としても期待が寄せられ13日に開業しました。春の全国交通安全運動期間中の事故が多発し、特に死者は6人と過去10年間でも最悪の結果となりました。

国の伝統的工芸品に、浄法寺塗秀衝塗が指定されたのが22日です。**5月** 三陸沿岸の密漁取り締まりや水難救助などに活躍する県警の新鋭警備船さんりくが就航したのは10日でした。

県内のトップを切って姫神山の山開きをした19日、県植樹祭が沢内村で1,300人が参加して開かれ、緑の遺産を後世に残そうと森林愛護を誓い合いました。

青年の社会参加、国際社会への協力を訴える国際青年年県内キャンペーンが行われたのが24日から26日まで。県内62市町村をくまなく巡回し、交流集会や国際森林年を記念しての植樹をするなど多彩なキャンペーン活動をしました。

**6月** 10日に本県と中京経済圏を1時間15分で結ぶ東亜国内航空の花巻一名古屋便が開設され、経済交流の拡大に期待がかけられる一方、花巻—東京便は、30日最終便を最後に、21年間の歴史の幕を閉じました。

15日、北上山系の山間部を中心に襲った遅霜による農作物被害は5億3,300万円を超え、県内の凍霜害では最大規模のものとなりました。大東町に進出する岡谷電機産業



▼新日鉄釜石ラグビー部が県民栄誉賞受賞第1号（2月）



▼2年連続大豊作を迎えた水稲（10月）



▼華やかに繰り上げられた第9回全国高等学校総合文化祭（8月）



▼県内初の本格的博覧会「いわてピア'85」のテープカット（8月）



▼高速関連道路整備も着々と進む。（県道戸呂町一軽米線）（11月）



▼本県勢が大健闘した全日本ホルスタイン共進会（10月）



▼三陸沿岸振興の拠点として期待されるグリーンピア田老（4月）



▼釜石警察署に配備された新鋭警備船「さんりく」（5月）



の立地協定書調印式が行われたのは19日。この日、全国規模で詐欺まがいの金のペーパー商法を繰り上げた豊田商事問題で、県内被害者の相談会が盛岡で開かれました。

**7月** 63年代代スキー国体開催が正式に決定したのは3日です。地元安代町をはじめ関係者は国体成功に向けて決意を新たにしました。

8日に開かれた6月定例議会本会議では、オリンピック冬季競技大会盛岡招致を決議しました。

14日には盛岡市繋の御所湖広域公園に県が建設を進めていた、東北一の規模を誇るつなぎスイミングセンターが開園しました。

25、26日の両日、鈴木東京都知

事が、中村知事の招きで都知事として初めて本県を公式訪問。三陸鉄道を視察したほか、東京都のマイタウン構想と本県のふるさと交流事業を連携し、より交流を深めていくことを強調しました。

県単高速交通関連道路整備事業を進めている、県北ルート<sup>1</sup>の県道戸呂町一軽米線・戸呂町2号トンネルと戸呂町5号橋の開通式が行われたのは29日です。

31日に県行革推進懇談会が、12の合同庁舎に総合事務所「地方振興局」を設置することなどを盛り込んだ行政機構再編整備素案を了承し、県版行革は大きく動き出しました。

## いわてピア全国高文祭華やかに開催

**8月** 真夏の太陽が照りつけた2日、高校生の文化の祭典・第9回全国高校総合文化祭は、盛岡市を中心会場に全国から1万5,000人が参加して華やかに開幕しまし

た。県が総事業費43億円をかけて進めていた東日本最大の多目的催事施設、岩手産業文化センターが滝沢村に完成し落成式が行われたのは10日。同センターの開館記念

事業として開催されたいわてピア'85は、「明日の岩手 産業と文化の創造」をテーマに25日までの16日間繰り上げられました。本県初の本格的博覧会とあって県民の関心も高く、県内外から26万人余の入場者でにぎわうなど、この月はビックイベントが相次ぎました。

40年に制度が発足して以来、21年目にして県内の献血者が通算100万人を達成したのは28日です。

**9月** 高速道路でのシートベルト着用を義務づけた道路交通法の改正が施行されたのは1日です。

国鉄が第二次特定地方交通線で処分保留となっていた岩泉線の廃止申請取り下げを9日に決定し岩泉線の存続が正式に決まりました。

ウニの人工種苗を生産供給する県第二栽培漁業センターの建設着工は12日。本年度から3カ年計画で種市町に建設し、年間500万個のウニ種苗を生産するものです。

20日には県内6番目の公共港湾小本港の起工式が行われ、総工費

約100億円で70年完成を目指し、地域の発展に大きな役割を果たすものと期待されます。

27日韓国で行われた第14回世界柔道選手権（78kg級）で日蔭暢年五段（県警機動隊）が、モスクワ大会に次いで二連覇を達成。ロス

## ホルスタイン共進会で本県勢大健闘

**10月** 県民に愛される民放FM局として地域社会、文化の発展に期待がかけられているエフエム岩手が1日に開局。さわやかなリズムが県内各地に流れました。

生物工学科や産業技術科などの学科を新設し、時代に対応した職業教育の充実を特徴にした61年度公立高校再編計画が発表されたのは2日です。

常陸宮ご夫妻が来県されたのは8日。9日には、常陸宮ご夫妻が出席されて岩手産業文化センターで、酪農の祭典第8回全日本ホルスタイン共進会が開催されました。

五輪選考会で敗れたものの、その後見事に立ち直り快挙を成し遂げた日蔭選手には、県民栄誉賞が贈られました。

15日現在の県内水稲の作況指数は107の「良」と発表され2年連続の大豊作が確定的となりました。

5年に一度開かれるこの大会には、全国から選ばぬかれたホルスタイン297頭がその能力、資質を競い、本県からも38頭が出品され未経験の部で、西館茂さん（一戸町）所有のエスティー号が名誉賞に輝いたほか、5部門で8頭が優等賞を獲得するなど大健闘しました。

16日にサクラマスの稚魚10万匹が安家川に放流され、生態・帰帰率の調査が始まりました。この日、三陸鉄道南リアス線に小石浜駅が誕生しました。

鳥取県で開かれた第40回国民体育大会「わかとり国体」での県勢

は健闘及ばず、天皇杯順位が23位に終わり昨年の15位から後退する残念な結果となりました。

今月15日現在の県内水稲の作況指数が109の「良」と発表され2年連続の大豊作となりました。

**11月** 2日から10日まで第1回シンガポール岩手の物産と観光展を開催。11日に「いじめ対策本部」を全国で初めて設置し、児童・生徒のいじめ防止対策に取り組みました。この日、国勢調査の概数が発表され、県の人口は143万3,577人で前回（55年）を1万1,650人上回る結果となりました。

郵政省のテレトピア（未来型コミュニケーション）構想モデル都市の整備促進地域となっていた一関市が、本指定へ格上げされたのは20日です。

**12月** 岩手の空の防人「岩手県警察航空隊」がスタートするのは7日。県版行革の「地方振興局」などの設置については、12月定例県議会でも審議されます。